

化石発掘体験レポート

令和7年度（2025年度）は定期的な化石発掘体験を実施し、年間で約500人の参加がありました。発掘体験には子どもだけでなく大人の参加者も多く、地元の身近な学習機会を提供できたとともに、町外からの観光需要の喚起にもつながる可能性が見えてきました。発掘体験事業では、よりよい地元資源の活用には展開させるため、参加者にアンケート調査も行いました。

● 来訪者の居住地と季節変化

発掘体験を開始したゴールデンウィークでは、参加者の約70%が町外からでしたが、夏休みから秋にかけては約85%と、町外参加者の割合が大きくなりました。特に夏休み期間では、4組に1組が県外からの来訪でした。

町内の需要は一巡し、化石の発掘体験が有田川町を訪れるきっかけになっている傾向が見られます。

発掘体験来訪者の居住地（2025）143組



参加者の過去1年間の有田川町への来訪回数 143組



発掘体験後の回遊先（2025）N=85（複数回答）



● 来訪回数と発掘体験後の回遊先
町を知ってもらうためには、訪れるきっかけづくりが大切です。参加者はリピーターも多かったのですが、約20%の方がこの1年間で「初めて」有田川町を訪れたと回答しており、新たな来訪者の開拓につながっています。一方で、発掘体験を目的に来訪した後に、他の施設や飲食店、買い物などで周辺を回遊してもらうことも重要です。目的地からの回遊性の向上は、一般的に難しい課題とされますが、発掘体験後に「回遊した」という方が約55%に上りました。主な回遊先としては温泉や鉄道公園などが挙げられ、大多数が町内の施設でした。町を訪れる理由があり、それに食事やお土産の需給が付随することで、学習機会は観光振興にも寄与していきます。集客が観光振興の第1ステップであるとなると、第2ステップは回遊してもらえらる仕組みづくりを整えることです。町の資源を積極的に活用する上では、一見無関係にみえるもの同士でも、うまく結び付ける導線づくりを意識することが大切です。